令和6年度　職員評価　＜児童発達支援事業＞

令和7年3月24日
留萌市子ども発達支援センター

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫、課題（要約）	改善策
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	12	1	0	・人数が多い時には活動にあわせて、プレイルーム等を活用している。 ・指導前に振り分けられている。 ・予約状況によっては部屋が足りないときがあり、都度職員で話し合っている。 ・朝一の時間帯に指導が集中するため、日によっては指導室不足の状態になってしまうが、時間をずらしたり、小グループで活動したりして対応している。 ・時折、1つの枠に指導が集中してしまうことがある。 ・指導内容や人数により、指導室が足りなかったり、希望の部屋が使えない等もあるが、活動や部屋を共有で使用したり、パーテーションで区切る等して対応している。	・時間割を現在の3コマから6コマに変更し、個別指導の部屋が充足するように工夫していく。
	2	職員配置は適切であるか。	9	4	0	・利用者以外の受け入れ（見学相談）等の体制について、対応する職員を柔軟に決めていく必要があると思う。 ・適切に対応できるよう指導体制を考えているが、急遽適切に行えなくなったときは指導中止の連絡を保護者にする等の対応をしている。 ・出席者数は定員の6割程度で推移しており、体制的には一人当たりの指導数はまだ余裕がある状態となっている。	・担当を固定せず、空いている職員で対応する。
	3	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	0	0		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか。	11	2	0		
	5	職員評価及び保護者評価の結果を踏まえ、事業所としての評価を行い、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	13	0	0		
	6	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	13	0	0	・日々の業務があり、研修の機会は少ないと感じる。 ・日々の業務に追われてしまい、外部の研修に参加したり、個々で学ぶしかない。 ・児童発達支援関係の研修だけではなく、市町村職員研修センターなどの研修にも参加し、公務員としての学びの必要性も感じる。	・外部や全体での研修ばかりでなく、少しの時間でも職員同士で学び合う機会を作りたい。
適切な支援の提供	7	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で支援計画を作成しているか。	12	1	0		
	8	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	10	3	0		
	9	支援計画に沿った支援が行われているか。	13	0	0		
	10	子どもの状況に応じて、個人活動と集団活動を適宜組み合わせて支援計画を作成しているか。	13	0	0		
	11	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	10	3	0	・グループ指導時は事前に支援内容や役割分担を行っているが、個別指導では各自が支援内容等を考えて行っている。 ・必ずではないが、必要なことは共有している。 ・８時50分と15時から打ち合わせをしているが、もう少し詳しく丁寧に話し合いたい。 ・予定しているプログラムに合わせた教材、指導室の配置を話し合っている。	
	12	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	8	5	0	・グループ指導時は支援内容の振り返り等を行っている。 ・必ずではないが、時間を作って共有しあうようにしている。 ・時間を設定してまでには至っていないが、指導の合間に職員間で情報共有でき、また支援内容・指導記録はどの職員でも閲覧できる状態になっている。	
	13	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0	0		
	14	定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	13	0	0		
関係機関や保護	15	障害児支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	13	0	0		
	16	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	13	0	0		

関係機関や保護者との連携	17	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	0	0	・こちらから見学に行くだけでなく、センターでの様子を見に来ていただき、共通理解を図ることができた。	
	18	移行支援として小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	0	0		
	19	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	10	3	0	・医療受診に同行し助言を得て、関係機関との情報共有を図っている。 ・交流する機会があれば、と思う。 ・医療受診同行など積極的に行い、専門機関や関係機関との連携を図っている。同行や書面だけでなく、メールやチャットなどのツールも活用しながら更に連携を深めていければと思う。	
	20	地域の子ども・子育て支援会議へ積極的に参加しているか。	8	5	0		
	21	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	0		
	22	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対し家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）等の支援を行っているか。	8	5	0	・家族支援は随時行っている。	
保護者への説明責任等	23	保護者会等を開催するなど、保護者同士の連携を支援しているか。	0	13	0	・家族支援は随時行っている。おやじの会を行い、夏祭りやクレープづくり体験等を開催。 ・保護者機としての開催ではないが、グループ活動の際などにつながりを促している。 ・保護者会の計画はしているが、仕事の都合などで出席する保護者が少なくなっている。小グループ活動や行事などで交流できるよう計画を立てている。 ・夏祭り以外で保護者同士が触れ合ったり、交流できる場は必要かもしれない。 ・保護者会としての設定はほぼないが、行事や集団活動の際には関わりを持てるように心がけている。保護者会主催の行事に積極的に協力している。	・母の会は開催できていないが、今後は開催していきたい。 ・研修や懇親会を企画できれば。
	24	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	1	0	・療育相談会や学校・園からの相談、直接保護者からの相談など、相談の間口を広げ臨機応変に対応している。療育相談会の周知方法などは工夫が必要。	
	25	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13	0	0	・通信に加え、必要な情報はアプリでの配信を行っている。	・アプリを活用した情報発信は引き続きしていきたい。
	26	個人情報の取り扱いには十分注意しているか。	13	0	0		
	27	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	0	0		
	28	行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	2	0	・訓練を必要とするものもある。 ・夏祭りを実施した。 ・市民セミナーや夏祭りを開催している。市民セミナーは内容や周知方法などの検討が必要。	
非常時等の対応	29	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知すると共に発生を想定した訓練を行っているか。	3	10	0	・訓練を必要とするものもある。 ・周知はしているが、訓練はしていない。全職員対象にAED研修を実施した。防犯や感染症対策に関する研修等は参加しているが、訓練は今年度は未実施である。 ・周知はしているが、訓練の回数は十分でないと感じる。	
	30	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	1	0	・春、秋の年２回訓練を実施。AED講習も定期的に受けている。	・火事や地震の発生を想定した避難訓練を定期的に実施しているが、救出方法の確認や訓練等ができると更に良いのでは。
	31	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13	0	0		
	32	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか。	11	2	0	・日ごろの積み重ね意識をもっていくことが大事と思われる。 ・アレルギーは保護者からの報告だが、安全には配慮している。	
	33	ヒヤリハットの事例集を作成して事業所内で共有しているか。	6	7	0	・日ごろの積み重ね意識をもっていくことが大事と思われる。 ・今年度は大きな怪我も起きてしまった。ヒヤリハット含めて、職員の日頃の安全に対する心構えや安全対策の研修等が必要。 ・実際に起きた時には改善策を話し合っている状況であり、日常の中で小さなヒヤリを共有していくことで自己を防ぐことができるのではと感じる。	・もっと活用していく。 ・ケース検討会議や安全対策の研修なども実施していければと思う。
	34	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0	0		

	35	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、支援計画に記載しているか。	7	6	0	・現状として拘束が必要なお子さんはいない。必要になった際には、十分にインフォームドコンセントした上で、支援計画にも記載したい。	

〇ご意見を踏まえた今後の対応・方針

・1について～保護者の希望がどうしても朝の早い枠に集中しがちであるため、1日3枠から6枠に組み直して少しでも分散できるようにする。ただ、指導室に限りがあるため、部屋以上の指導がある場合は、指導員間での調整、工夫を要している。
・2について～通常の指導に加えて、見学相談等の臨時の対応が必要になった場合、限られた人員の中ではあるが、割り振りは柔軟に対応していく。
・6について～通常の業務に研修の時間を確保することはなかなか難しいが、自己研鑽は絶対に必要である。様々な研修の案内があるので、時間のやりくりをして外部の研修にも積極的に参加する意気込みが欲しい。
・11、12について～複数職員で行う指導には事前事後の打ち合わせはより良い指導や事故防止のためには欠かせない。短時間でも効率の良い、必要事項の漏れがないような打ち合わせをできるような意識を各人が持ち合わせていたい。
・19について～医療受診同行は、当センターの強みの一つではあるが、貴重な機会をより有効に使うための準備をするとともに、より短時間で医師に必要事項を伝えたり、聞き取ったりする工夫をして望むことが大事である。
・23について～保護者同士が関わる機会は以前と大きく変わっているわけではないが、コロナ禍を経てつながりが希薄になってきたことは否めない。指導員との良好な関係だけでなく、保護者同士で悩みを共有したり、より良い療育につなげていくヒントを共有したりすることはとても大事なことではあり、時代に合ったやり方でのお膳立てを考えていきたい。
・29について～防犯や感染症対策など机上の研修にとどまっているものもあり、実地訓練の機会を設け、非常時に備えたい。
・33について～今年度は指導時の児童のけがが発生するなどしたこともあり、大きな事故につながることのないよう確実なヒヤリハットの積み重ねをおこなう必要がある。